

## ■ちーびし

## ○中村直子「種子島小浜遺跡発掘調査報告」をめぐって

- 第8回定例研究会報告

今月号では、7月の定例研究会でご報告いただいた中村直子先生（法文学部人文学科・埋蔵文化財調査室）の「種子島小浜遺跡発掘調査報告」についてご紹介します。

## 報告要旨

種子島は、弥生・古墳時代並行期の埋葬遺跡が砂丘上に見つかっており、人骨の残りもよいことから、考古学・形質人類学上重要な地域として注目されている。筆者ら調査団は、今年4月に小浜遺跡で埋葬人骨を発見し、その発掘調査を行った。

遺跡は、西之表市伊関浜走に所在する。調査は、平成16年6月6日～13日に実施した。遺跡の立地は砂丘地である。この遺跡は、1997年に熊本大学を中心とする調査団が発掘調査を行い、3体の埋葬人骨を確認している。副葬品などは出土していないが、埋葬遺構と同一層から上能野式土器が出土していることから、古墳時代並行期と位置づけている。

今回発掘調査を行ったのは、その地点から南に約50m離れた地点である。調査目的は、発見した埋葬人骨（1号墓）の発掘調査であったが、埋葬人骨から南西に2m離れた砂丘壁面に覆石墓（2号墓）を確認した。これらはいずれも同一層に含まれるものである。

1号墓は土壙墓であるが、検出面が表土に近く、その上層は掘削されていたため、覆石墓であった可能性もある。埋葬姿勢は、横臥屈葬で頭位は北西、顔は西側を向いていた。またきつい屈葬姿勢であった。人骨は30歳前後の男性である。副葬品・装身具はなかった。その他の遺物も出土しなかった。

2号墓は壁面観察のみの所見だが、頭位は

北方向で、顔は西側を向いている。これら2つの遺構は同一層であり、埋葬姿勢も類似する可能性が高いことがわかった。また、1997年調査の埋葬遺構とも埋葬姿勢など類似点が多く、同時期の可能性が高いと推定できる。

今後、人骨の放射性年代測定などを用い、詳細な遺構の年代を決定していく予定である。

(中村 直子)

## 意見交換

研究会出席メンバーの多くが、考古学について専門外でしたので、意見交換というより中村先生への質問という形で会が進められました。ということで、Q&Aの形で会の模様をご紹介します。

Q 種子島には埋葬遺跡しかないのですか。

A 弥生・古墳時代並行期の遺跡については埋葬遺跡しか発見されていない。層の中に土器が入っているという状態の遺跡もあるが、それだと住居跡等が出てこないので詳細なことはわからない。

Q 埋葬遺跡は砂丘以外の場所では見つからないのですか。

A 現在のところ弥生・古墳時代並行期については、砂丘以外の場所で埋蔵遺跡は発見されていない。山間部でも遺跡は出ているが、もっと古い時期（旧石器時代や縄文時代）の居住跡の遺跡で、墓は発見されていない。砂だと人骨も残りやすく、また発掘もしやすいが、土に埋められた骨は残りにくい（土壌の中には微生物がたくさんいて腐る速度が早い）。

Q 人が住んでいた場所と墓は遠いのですか。

A 小浜遺跡は砂丘にあり、近くに居住できるような場所はない。詳細については今のところ不明である。

Q 縄文時代と弥生時代では、住居と墓の関係が異なると言われていますが。

A 一般的にはそう言われているが地域によっていろいろなパターンがある。相対的にいうと縄文時代の方が集落と墓は近いようだが、その中でも墓と居住は分けている方が多いようだ。弥生時代の場合もいろいろなパターンがある。小浜では墓と居住区はある程度離れていたと推定している。

Q 種子島に鉄器や夜光貝は入っていたのですか。

A 鉄製の釣り針が1点出土している。鉄器がどの程度普及していたかは不明だが、入ってはいただろう。ただ、そんなに普及していたとは思えない。夜光貝も出土している。

Q 屈葬にはどんな意味があるのでしょうか。

A どういう意味があるのか不明である。悪霊が出ないように行ったという説もある。屈葬といっても様々なパターンがある。

Q 古墳時代における南九州と種子島の交流、関係についてお聞きしたい。

A 弥生末期、古墳前期、南九州と種子島の間には交流があった痕跡がある。ただ、種子島の文化圏は鹿児島とは別であり、物が入っていたが、風習は独特である。種子島は南西諸島と西北九州の交流のポイントだった可能性がある。人の移住について言うと、広田遺跡から中国(人)が種子島に渡来したとの指摘もあるが、その可能性は低いと思う。考古学的には立証できていない。

Q 小浜遺跡の人骨から、頭部を人為的に変形させる風習があったことが推測される、というお話しでしたが・・・

A 人骨を見ると、扁平に変形している。以

前から頭を変形させる風習があったのでは、と言われていた。ただ、変形させるのに使ったと思われる道具は出土していない。インカ文明でも頭を変形させる風習があった。

Q 人々の間に階層性は進んでいなかったのでしょうか。

A なんらか階層はあったと思うが、古墳文化に見るような複雑な階級性、階層性はそれほど発達していなかったと思う。

Q 種子島の他の遺跡では、二次葬(集骨)が確認されたということですが、なぜ小浜だけ屈葬なのですか。

A 種子島の遺跡では、広田遺跡(で見られる集骨)の方が特異である。種子島では小浜以外の遺跡でも屈葬が見られる。そういう意味では小浜遺跡の方が普通と言えるかもしれない。

Q 種子島の北と南では地域差はあるのですか。

A 遺跡の時期の特定が必要であり、それからはっきりしないと何とも言えない。

今回の定例研究会につきましては、8月はお休みして、9月1日に開催いたします。報告者は北村良介先生です。

○日	時：9月1日(水曜)
	午後6時～午後7時30分
○場	所：法文学部2号館3階会議室
○報告者	：北村良介先生(工学部)
○報告題目	：「鹿児島県内の土の保水・透水・圧縮・せん断特性－降雨に伴う地盤の力学特性の変化－」

(研究会事務担当/山本一哉/法文学部)

定例研究会での配付資料（研究会の様子はICレコーダーで録音し、電子ファイルの形で保存しております）や今後の研究会の開催予定等につきましては、研究会事務担当の北崎浩嗣（099-285-7592）もしくは山本一哉（099-285-7595）までお問い合わせ下さい。